

【医療計画素案（案）】

令和5年度第2回口腔保健推進協議会における意見と対応

	素案（案）の 該当ページ	素案（案）の記載部分	意見内容	事務局の考え
1	p137	第4章6節今後高齢化に伴い増加する疾病等対策 ＜施策の方向と主な施策＞ （歯科保健医療）	＜口腔ケアという用語について＞（再掲） 歯科医師、歯科衛生士のどちらかが行う場合には「口腔衛生管理」や「口腔機能管理」のどちらかにした方が今の学術的な動向とマッチングします。歯科専門職が行うものも介護職が行うものも「口腔ケア」という書きぶりになっていますので学会の方向性と合わせて、用語を修正した方がよい。	最新の学会定義では歯科専門職が行うもののうち、口腔清掃を含む口腔環境の改善など口腔衛生に関わる行為を「口腔衛生管理」、口腔の機能の回復及び維持・増進に関わる行為を「口腔機能管理」、歯科専門職以外が行うものを「口腔ケア」としていることを受け、歯科専門職が行うものについては「口腔衛生管理」「口腔機能管理」の表現に修正。 （計画の内容に反映）
2	p136	第4章6節今後高齢化に伴い増加する疾患等対策 ＜課題＞ （歯科保健医療）	＜オーラルフレイルはフレイルの前段階という記載について＞ オーラルフレイルはフレイルの入り口であるとの表現の方がよりわかりやすく、フィジカルフレイルのスパイラルへの入り口という観点でも適切であると考えます。	「入り口」という表現の方が道民に対し理解していただきやすいこと、フレイルを提唱した東大の飯島教授もオーラルフレイルはフレイルの「入り口」という表現を用いていることから「入り口」という記載に修正。 （計画の内容に反映）
3	p135～p136	第4章6節今後高齢化に伴い増加する疾患等対策	＜口腔衛生管理と認知症対策について＞ オーラルフレイルをしっかりコントロールすることで要介護状態を減らせる、身体機能を減らせるという視点を入れ、今後の高齢社会に向けて、大きな社会の喪失要因を口腔の状態から減らせるという観点が入られると考えるがいかがか。	p136にオーラルフレイルが、フレイルの入り口であり早期にオーラルフレイルに気づき、口腔機能の向上に取り組むことが記載されていることから、今後の普及啓発等、事業の中で適切に反映する。 （施策に反映）

	素案（案）の 該当ページ	素案（案）の記載部分	意見内容	事務局の考え
4	p135～136	第4章6節今後高齢化に伴い増加する疾患等対策	<p><認知症対応力向上研修について></p> <p>オレンジプラン策定から認知症に対する向上力の研修会にかなりの薬剤師の人数が修了証を得ている。道庁としてこの向上力研修会を、例えば医療計画策定に盛り込め、数値目標に盛り込むなど、検討すべき。</p>	<p>本事業の推進に当たっては医療介護総合確保基金を活用しており、毎年の都道府県基金計画において年 150 人/年を目標として進捗管理を行っており、引き続き当計画の進捗を確認しながら適切に事業実施に努める。</p> <p>※認知症施策大綱における K P I が 6 年間で受講者 4 万人であったことから、都道府県数で割り返した 141 人/年から少し高めに設定している。</p> <p>(施策に反映)</p>